

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04047

研究課題名（和文）海外出稼ぎネットワークと女性のエンパワーメントの関係についての研究

研究課題名（英文）A study of Indonesian emigrant workers network and the women's empowerment

研究代表者

横本 真千子（Yokomoto, Machiko）

北海道大学・経済学研究院・研究員

研究者番号：70463726

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、インドネシアの女性海外出稼ぎ労働者の就労構造を、その送り出し・受け入れシステムの構造、そしてそのシステムの利用者である各女性家事労働者の属性を丹念にひも解くことで明らかにした。聞き取り調査は、女性労働者の送り出し国であるインドネシア農村と受け入れ国である香港と台湾で実施したインタビュー調査に基づいて女性家事労働者の出稼ぎの型を分析することによって海外出稼ぎの就労構造を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、家事労働者送り出し制度の問題点を指摘し、海外出稼ぎ経験者への聞き取り調査をもとに女性家事労働者が自らの利益を増やすために既存の制度にどう対応しているかを検証した。家事労働者は単純労働力に分類されるが、海外就労によって言語、情報アクセス、他国出身労働者からの情報収集などさまざまな能力を獲得する。それらの能力を駆使し、渡航経験者は再渡航に際しより良い就労条件を獲得する。女性たちは、自らの年齢や経験から渡航国を選択・変更し、海外就労のサイクルに自らのライフイベントを組み込み渡航関連費用等の負担の最小化と利益の最大化を実現する。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the working structure of Indonesian women domestic workers going work away from their homelands to another country from seeing the system in which sends and receives and their characteristics in detail. This study analyzed their migrant structure based on interviews with the workers in their home country, Hong Kong and Taiwan which is a country of their destination. This study clarified of the types of the workers and examined the issue of the working structure in Indonesia.

研究分野：ジェンダー

キーワード：海外労働移民

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

海外出稼ぎ渡航ネットワークは、その形成の長い歴史を通して渡航情報を所持する者がネットワークに強い支配力を有した。これまで女性たちは、既存の渡航ネットワークのもとでは受動的な存在でしかなかった。本研究は、女性たちが出稼ぎ後にその経験と情報を活かして既存の構造に働きかけ内側からシステムの変革をおこなう過程を現地において調査し、海外出稼ぎ女性労働者のエンパワーメントと出身農村地域への貢献を明らかにする。

家事労働者は、就業する地域によって海外出稼ぎ家事労働者と国内の都市出稼ぎ家事労働者の二つに分けることができる。女性家事労働者に関する研究のうち海外出稼ぎの家事労働者については、国際労働力移動の分野で多数の研究がなされてきた。例えば、再生産領域のグローバル化についてさまざまな海外出稼ぎ女性労働者の事例をもとに分析をおこなった研究[A1]、インドネシアからおもに中東への海外出稼ぎ家事使用人について出稼ぎ国での不当な扱いなどの問題点を検証した研究[A2],[A3]などである。これら先行研究は、国際労働力移動の今日的潮流である「移動の女性化」の事例として、おもに途上国から先進国あるいは産油国への労働力移動を分析する。一方、インドネシア国内の都市出稼ぎ家事労働者については、インフォーマルセクターあるいは雑業層の就業の一種として女性家事労働者について言及されるのみで、女性家事労働者そのものを題材とした研究業績は少ない。しかも、家事労働者における児童就労者の多さと過酷な労働環境について注意喚起を促す報告書がその大部分を占め、実際には多くの農村出身女性が就労する職種でありながらも職業として女性家事労働者を分析する研究はほとんどなされてこなかった。

申請者はこれまで国内の女性家事労働者についてと海外出稼ぎ女性家事労働者についての両面から研究をおこなってきた。その結果、国内の家事労働者も海外出稼ぎ家事労働者も仲介業者を通じて職を得ていることがわかった。農村出身の女性にとって、就業に関する情報が公的なルートによってもたらされることは非常に稀であり、多くは口コミによってもたらされる。農村で「募集人」と呼ばれる者が、就労希望者には就労に関する情報を、仲介業者には希望者の情報をもたらすことで就労希望の女性と仲介業者とのパイプ役となっている。もちろん、政府によって積極的に派遣が進められている海外出稼ぎ労働者と労働法の適用すら受けない国内の家事労働者の仲介業者には、管轄省庁、法令ならびに事業規模などの点で大きな違いがある。しかしながら、両者が都市に事務所を構え、実際に農村で希望者を調達するのは在村の募集人であるという点には相違がない。農村出身者が出稼ぎをする際には、在村の募集人がその足掛かりとなる。そのため、就労希望の女性にとっては、どの募集人から出稼ぎ家事労働者の情報をもたらされるか、どのルートをとって出稼ぎをおこなうのかが重要な分岐点となる。

申請者がおこなったこれまでの現地調査から、海外出稼ぎ希望者の募集人には出稼ぎ経験者となる傾向を見出した。すなわち、女性たちは、自らの海外出稼ぎ経験を活用して、渡航ネットワークシステムの内側に入り込んでいく。そのため、女性たち自身が、これまでの情報の独占によって出稼ぎ希望者に多くの金銭的負担を強いてきた渡航ネットワークシステムを内側から変革する可能性を有する。そのため、女性出稼ぎ経験者が農村において募集人として活動することによって、新たな帰村後のネットワークが確立され、そのことが農村地域に社会的な貢献を果たし得ると考える。

### 2. 研究の目的

本研究は、インドネシアの国際労働力移動について農村出身の女性出稼ぎ労働者に焦点をあてて出村時と帰村後のネットワークを分析することによって、海外出稼ぎ労働が女性のエンパワーメントにどのように寄与するかを研究する。社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)の観点から出稼ぎ労働の渡航ネットワークにおいて鍵となる募集人の活動に着目して構造を解明し、女性による出稼ぎシステム変革の動きを分析する。また、これまで渡航ネットワークについては、送り出しのネットワークのみが研究の対象とされてきたが、本研究においては海外出稼ぎ帰国女性によるネットワーク形成の可能性について検証を行う。

### 3. 研究の方法

平成28年度に情報提供者への依頼を兼ねたジャワ農村での予備調査、平成29年度と平成30年度に農村の募集人と海外出稼ぎ経験者への聞き取り調査および送り出し企業への聞き取り調査をおこなう。平成30年度は、現地で収集した刊行資料および聞き取り調査で得た資料をもとに『インドネシア海外出稼ぎ女性家事労働者渡航ネットワークの構造変革に関する研究(仮)』と題して国内外で学会発表をし、さまざまな研究者と意見交換をおこなう。また、日本においても国家戦略特区にて外国人家事労働者の受け入れが検討されていることから、外国人家事労働者についての関心が高まっている。そのため、公開講座を開催し、インドネシア人女性家事労働者の現状を広く周知する。最終的には、これまでの研究成果と合わせて女性のエンパワーメントと出身農村への経済・社会的貢献について明らかにし、インドネシアの海外出稼ぎによる地域貢献と渡航ネットワークに関する理論の構築をおこない、『インドネシア人女性家事労働者研究(仮)』として纏めて出版する予定である。

本研究は、3年間で予定し、1年を一段階として三段階に分けて研究および成果発表をおこない、以下の項目で構成される。

(1)インドネシアでの予備調査。調査対象者の確保と情報提供の依頼および聞き取り調査。

(2)ジャワ農村での本調査。募集人と海外出稼ぎ経験者からの聞き取り調査。

(3)渡航ネットワーク全体を統合するための調査。および、学会等での研究者との意見交換および市民講座での調査報告。調査によって得られた情報に基づいて、社会関係資本の観点からインドネシアの海外出稼ぎ渡航ネットワークの理論の構築をおこなう。

[研究初年度]

研究初年度は、おもにインドネシアにおける研究体制の確立をおこなう。首都ジャカルタ近郊に立地するインドネシア大学大学院ジェンダー研究所にインドネシアでの研究拠点を置く。7月から8月にかけてジャワ農村で調査対象者の予備調査をおこなう。ジャワは、インドネシアで最も海外出稼ぎ労働者を輩出している地域である。翌年の渡航ネットワークの解明調査のために、これまでの調査で関わった海外出稼ぎ経験者および募集人の案内によって農村で活動する複数の募集人および海外出稼ぎ経験者を探し、調査への協力を要請する。また同時に、都市の仲介企業へも調査への協力を要請し、募集人と仲介企業との関係および海外出稼ぎ経験者と募集人との関係の解明に向けた下準備をおこなう。ジャカルタの家事労働者支援団体へのインタビューおよび資料収集をおこない、国内外の女性家事労働者の動向についての把握に努める。

また、日本国内の学会および国際学会においてこれまでの研究と本研究での課題を報告し、内外の研究者から様々な意見を集める。

[翌年度]

前年度の予備調査において調査協力を依頼した募集人および海外出稼ぎ経験者へのインタビューおよび活動の詳細について調査をおこなう。調査は、複数の募集人からの聞き取りおよび特定の募集人に随時同行することによって活動の詳細を明らかにする。また、仲介企業と募集人との連絡および出稼ぎ希望者の送り届けの詳細についても同行のうえで詳細を調査する。適宜、研究協力者と議論の場をもち、調査の見直しおよび本研究遂行に向けた意見交換をおこなう。

[最終年度]

本研究のまとめと学会発表および論文の執筆をおこなう。また、広く本研究の意義を伝える。

#### 4. 研究成果

本研究は、インドネシアの出稼ぎ女性家事労働者を事例として、渡航ネットワークにおける募集人の役割に着目し、社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)の観点から構造と変革を考察する。これまで、国際労働力移動の送り出しについての研究はなされてきたが[A4]、[A5]、[A6]、送り出しシステムが所与のものと捉えられており、システム自体の変革・再編の可能性が考慮されてこなかった。その中で募集人は、就業に関する情報を種に出稼ぎの費用をつり上げる存在とみなされてきた。

申請者がこれまでおこなってきた調査において、出稼ぎ経験者が出身農村において募集の活動に新たに加わる例がみられた。自身が出稼ぎ経験を持つ募集人は、都市の仲介業の一端を担っている反面、同郷の出稼ぎ希望者の仲間でもある。そのため、出稼ぎ希望者を一方的に搾取するのではなく、出稼ぎ希望者の利益に資する存在となりうる。

本研究によって、出稼ぎ経験者が渡航ネットワークを内側から変革・再編させる可能性を明らかにする。そして、女性たちの農村での活動を調査することで、女性のエンパワーメントと出身農村地域への貢献を明らかにし、女性の出稼ぎ労働が農村にもたらす経済的貢献および社会的貢献を解き明かす。それに加えて、量的拡大を追求するインドネシアの海外出稼ぎ政策にたいして、渡航ネットワークの変革が家事労働者の就業条件および就業環境の改善のために重要であることを提言する。

#### 文献

[A1]伊藤るり・足立眞理子編著 [2008]、『国際移動と<連鎖するジェンダー>』作品社。

[A2]嶋田ミカ [2007]、『湾岸諸国における出稼ぎ女性をめぐる諸問題』久場嬉子編著『介護・家事労働者の国際移動』、日本評論社。

[A3]嶋田ミカ [2007]、『インドネシア女性の海外出稼ぎをめぐる諸問題』『アフラシア研究』No.3、龍谷大学アフラシア平和開発研究センター。

[A4]平野恵子 [2009]、『インドネシアの海外雇用政策 「移住労働の女性化」を中心に』国際移動とジェンダー研究会編『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』一橋大学伊藤研究室。

[A5]Massey, Douglas S. et al. (eds.) [1998], *Worlds in Motion: Understanding International Migration at the End of the Millennium*, Oxford, Clarendon Press, 1998.

[A6]Spaan, E. [1994], "Taikongs and Calos: The Role of Middlemen and Brokers in Javanese International Migration", *International Migration Review*, 28-1 (1994).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 横本真千子
2. 発表標題 Present Issues of Indonesian domestic workers: The case of Hong Kong
3. 学会等名 International Metropolis Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横本真千子
2. 発表標題 インドネシア家事労働者の送り出し制度の問題点
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考